



第63号
H25年12月19日

発行 結城地域農業改良普及センター
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682
HP <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noucenter/fukyu/yuki/>
<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kensei/youki/index.htm>

食の情報をきちんと捉える！

—結城地域農業・農村男女共同参画セミナー—

12月10日、当普及センターにおいて、結城地域農業・農村男女共同参画セミナーを開催し、管内女性農業者等52名が出席しました。

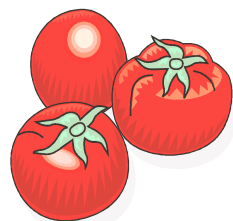
講演会では、群馬大学の高橋教授から、「食の情報とフードファディズム～メディアに惑わされない食生活～」と題して、「食」の情報の正しい捉え方についてご講演いただきました。食品を購入する際の表示への注意点や、食生活への男性の参画の大切さについて分かりやすく説明していただきました。

また、女性農業者活動紹介として、石下農産物直売所の菊地会長から直売所の活動について発表していただきました。同直売所では、加工品の開発やお客様感謝デー、昨年からはじめた給食センターへの食材供給など、幅広い活動を行っています。

「情報に惑わされていることを痛感し、食生活について考える良い機会になった」という意見が多く聞かれ、非常に有意義なセミナーとなりました。



左:石下農産物直売所のメンバー
下:講演の様子



農家・直売所の経営を学ぼう！ —結城地域女性農業士会経営研修会—



トマトハウス見学の様子

11月6日、結城地域女性農業士会が経営研修会を開催し、10名が参加しました。

研修では、結城市の会員2名（トマトおよび普通作）のほ場見学および直売所視察を行いました。

トマトハウス内においては、現在問題となっているトマト黄化葉巻病や重油削減対策について情報交換が行われました。女性農業者は、他の生産者のほ場を訪問することが少ないため、トマトハウスや大規模な普通作関係の施設を見学し、様々な経営について学ぶ良い機会になりました。

直売所視察では、「きらいち結城店」を訪れ、店長より直売所の概要について説明をしていただきました。研修の最後には情報交換会を行い、親睦も深まり有意義な研修会となりました。



安全・安心で高品質なハクサイづくりを！ -結城白菜生産者大会-



11月12日、JA北つくば結城園芸部会秋冬白菜部の生産者大会および統一目揃え会が行われました。今年度は、残暑厳しい中での定植となったものの、定植後の降雨に恵まれ豊作傾向でしたが、台風26号とその後の長雨で生育が停滞し作柄が一変しました。

しかし、台風通過により野菜全体の価格が上向き傾向であること、ライバル産地の切り上がりが見込まれることなどから、生産者の意欲は高く、①オリジナルブランド“菜黄味”シリーズで有利販売・所得の向上、②良品を作る自信と詰める注意で売る信用、③安全と安心にこだわり、めざそう“200万ケース”などのスローガンを採択しました。

普及センターからは、アブラムシ類の防除などについて情報提供を行うとともに、GAP項目の遵守などを働きかけました。今後も普及センターは、関係機関と連携しながら、安全・安心で高品質なハクサイづくりを支援していきます。

待ちに待った実用化！-麦湿害対策作溝同時は種実演会-

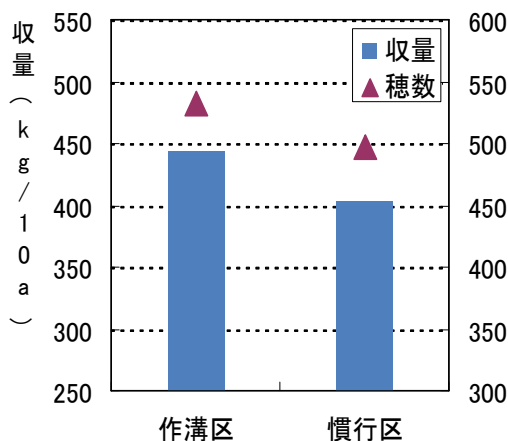
11月12日（火）に結城市・八千代町、11月13日（水）に常総市において作溝同時は種実演会を開催しました。

当普及センターでは、3年前から麦や大豆、そばの湿害対策として松山株式会社（ニプロ）と協力しながら溝を作りながら種を行う技術の確立に取り組んできました。昨年度のモデル機から、うね立て装置の強度や角度などに改良を加えた結果、きれいに溝付けができるようになり、生産者からは「昨年の物よりも良い」といった声が聞かれました。

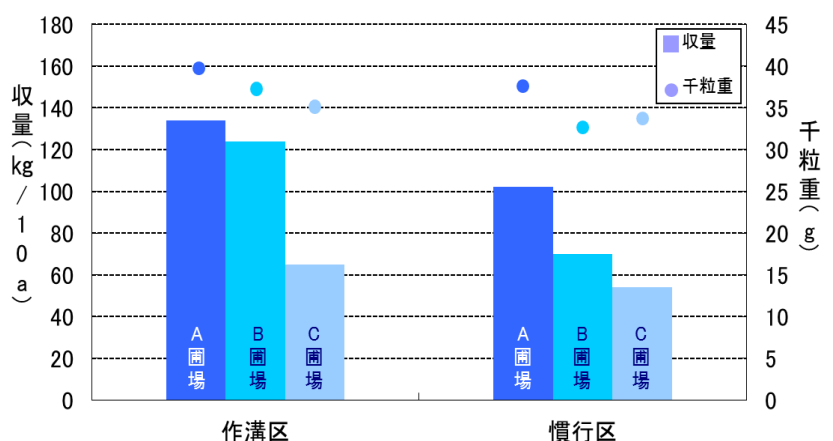
今回実演会で使用した「ニプロサイドディスク培土板」は2014年春に発売を予定しており、播種機が古くて買い替えを考えている生産者からは細かい質問が相次ぎ、4年目を迎えたこの技術の有効性が地域に浸透していることが感じられました。

『モデル機による現地実証試験結果』

小麦(平成25年産 さとのそら)



そば(平成25年産 常陸秋そば)



作溝同時は種により、収量が増加！

病害虫ノート

小麦粉をふりかけたような病徴！

-うどんこ病-

イチゴ・ピーマン・ナス・キュウリ等、多くの作物で問題となる病気です。発病すると、茎葉部や果実に小麦粉をふりかけたような病徴が出ます。多発すると防除が困難なため、初期防除を徹底してください。また、農薬散布を行う場合は薬液が葉の裏までよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布することを心がけてください。

現在、イチゴや促成ピーマンでの発生が多くなっているため、注意が必要です。

